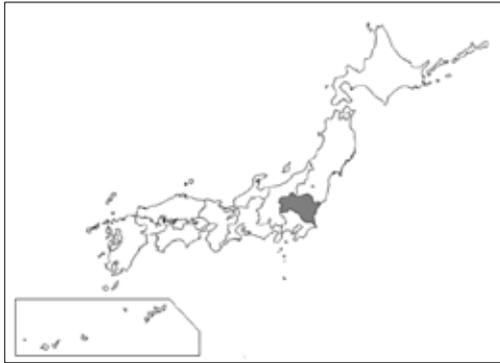


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

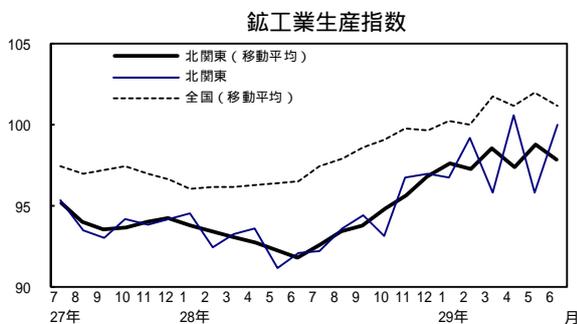
前回調査からの主要変更点

なし

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

4～6月期は、「汎・生産・業務用機械」及び「輸送機械」は、海外需要を背景に引き続き好調で増加した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」、「電子デバ、電気・情報通信」及び「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、需要は堅調であるものの、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

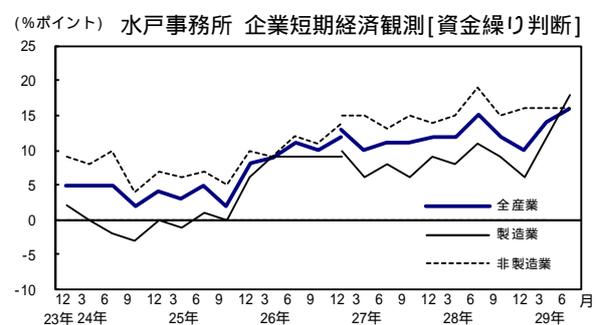
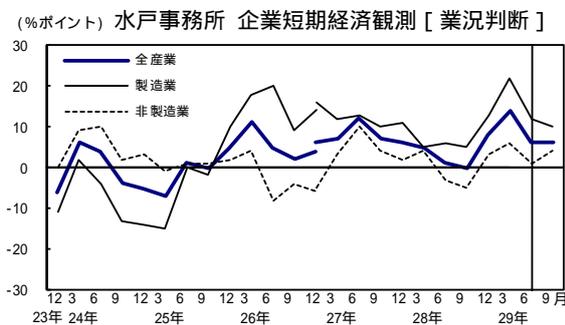
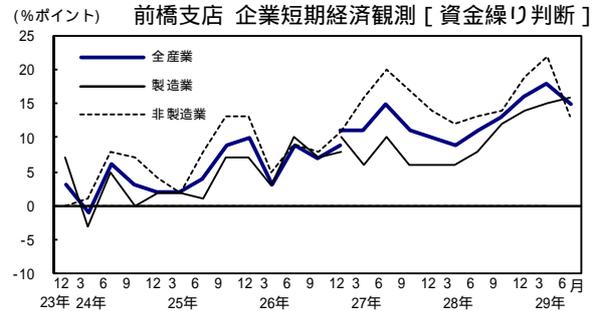
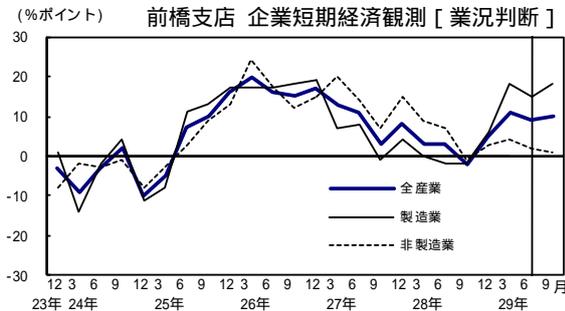
	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
石油・石炭、化学、プラ製品	19.7	3.0	0.3	0.5	1.9	4.6
電子デバ、電気・情報通信	19.5	1.5	0.5	1.9	2.6	2.5
輸送機械	18.4	2.3	0.9	14.3	17.4	10.2
汎・生産・業務用機械	16.0	2.0	7.2	6.2	0.8	3.9
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	12.9	0.6	1.2	3.1	5.2	1.6
鉱工業	100.0	1.7	1.6	5.0	4.8	4.4

- (備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
 2. 全国及び北関東の太線は中心3か月移動平均。
 3. 北関東は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 4～6月期、6月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの。

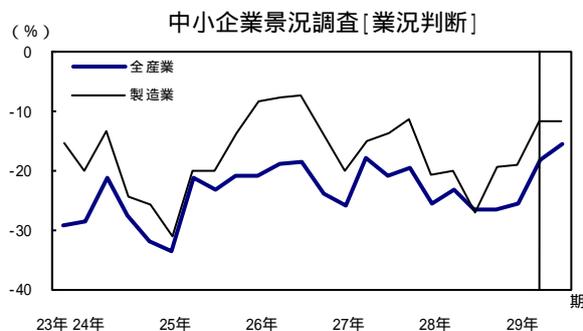
(2) 前橋支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。
水戸事務所の企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

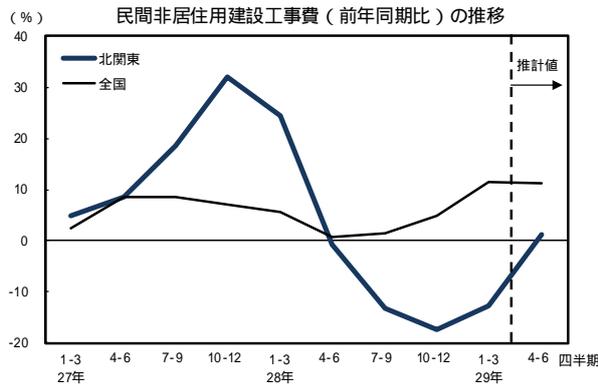
「取引先が十数社あるので、受注量、販売量、取引先の様子も様々で、忙しいところもあれば、暇なところもあり、現状は、ますますである(輸送用機械器具製造業)」等の回答がみられた。

(3) 北関東

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)



(備考) 29年4-6月期は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期 9.8 か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

	28年度実績	29年度値
全産業		
前橋支店	16.6 (4.7)	3.2 (3.0)
水戸事務所	2.3 (6.3)	19.8 (1.1)
製造業		
前橋支店	29.4 (5.8)	8.5 (7.5)
水戸事務所	13.4 (4.9)	34.5 (1.9)
非製造業		
前橋支店	15.7 (0.5)	17.3 (14.9)
水戸事務所	8.4 (8.0)	2.1 (5.4)

(備考)()内は前回(3月)調査との修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比 1.3%増、5月は同 0.3%増、6月は同 0.0%増となった。

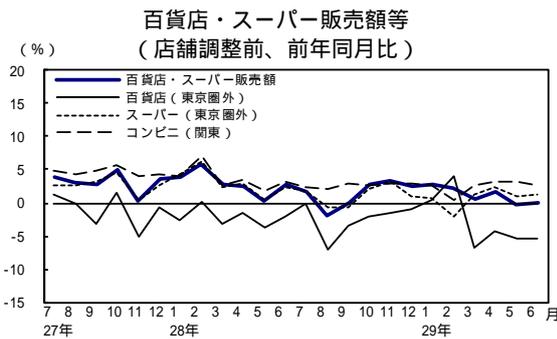
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、2月の閉店の影響もあり、4月は家庭用品等が不調で前年同月を下回った。5月は、衣料品等が不調で前年同月を下回った。6月は、家庭用品、衣料品、飲食料品、身の回り品が不調で、前年同月を下回った。

スーパーは、4~6月期は、天候不順により衣料品が連続して下回ったほか、家庭用品、身の回り品が不調であったものの、飲食料品が前年を上回ったことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[家計動向関連(現状)]

「主力車種のマイナーチェンジがあり、受注が伸びている(乗用車販売店)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。



	29年4-6月	29年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.1	1.3	0.3	0.0
百貨店・スーパー(*2)	0.5	1.8	0.2	0.1
百貨店(*3)	5.1	4.3	5.5	5.3
スーパー(*3)	1.5	2.4	0.9	1.3
コンビニ(*3)	2.9	3.1	3.1	2.6
乗用車(*4)	10.8	6.0	12.1	13.6
(季節調整値)(*4)	6.8	1.7	1.2	7.1

(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同(月)期比

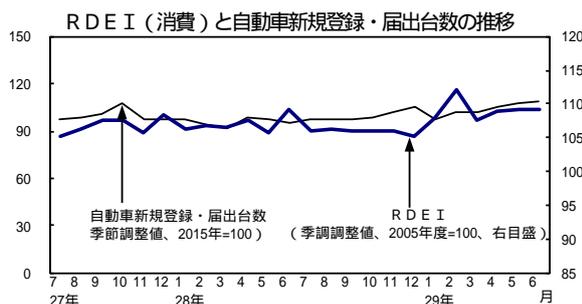
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同(月)期比

・百貨店、スーパーは、関東経済産業局の東京圏外(茨城、栃木、群馬、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

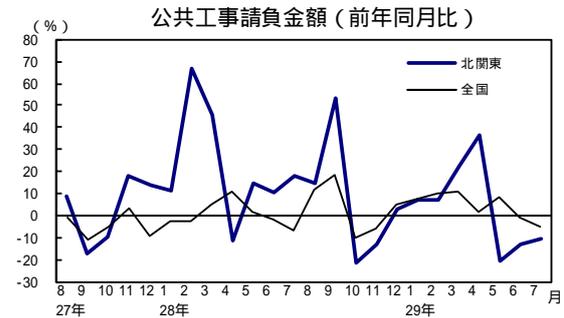
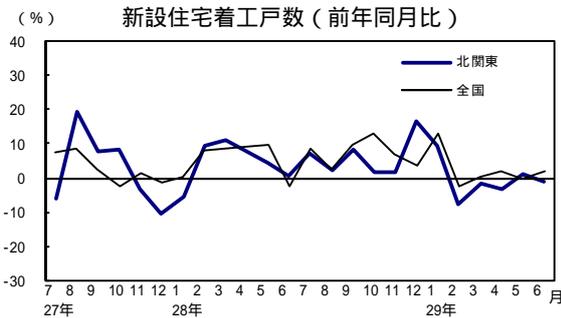
・コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%)



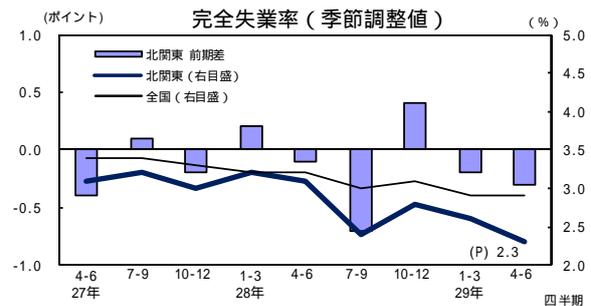
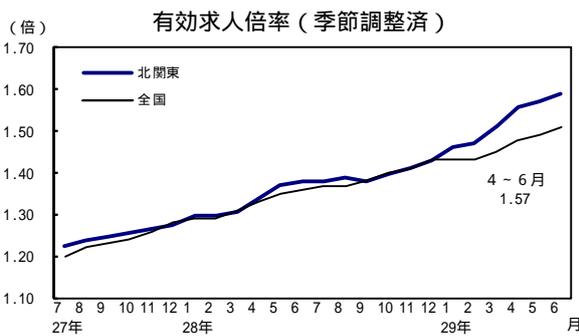
(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。
持家は前年を下回ったものの、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。季節性が認められなかったことから原数値と同じ。
2. 4-6月期の値は暫定値。

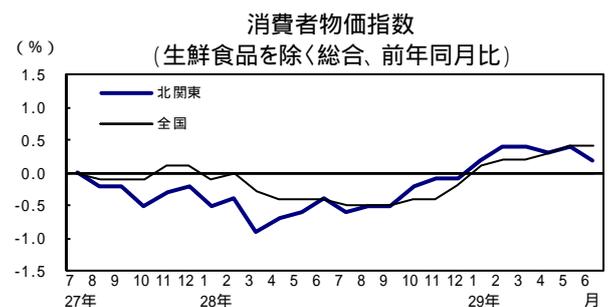
景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [雇用関連 (現状)]

「求人数は前年同月と比べてほとんど変わらないものの、求職者が減少傾向で、人手不足感が強くなってきている (職業安定所)」等の回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産	(件、億円、%)				
	28年7-9月	10-12月	29年1-3月	4-6月	29年7月
倒産件数 (前年比)	77 22.2	95 13.1	90 8.2	83 10.8	29 11.5
負債総額 (前年比)	121 38.1	183 93.8	165 26.3	132 35.6	45 14.3



(備考) 北関東は内閣府にて算出。

(3) 北関東

景気ウォッチャー調査（7月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・ 5～6月に比べて売上の伸びは鈍く、繁閑の差が激しい（都市型ホテル）

<先行き>

- ・ 季節要因で前年越えしたものの、冬に向けて伸びる商材が少ない（家電量販店）

景気ウォッチャー調査（季節調整値）

